

ふじみサラダボール子育て情報

「知的能力の基本」

令和5年9月20日号

板橋富士見幼稚園



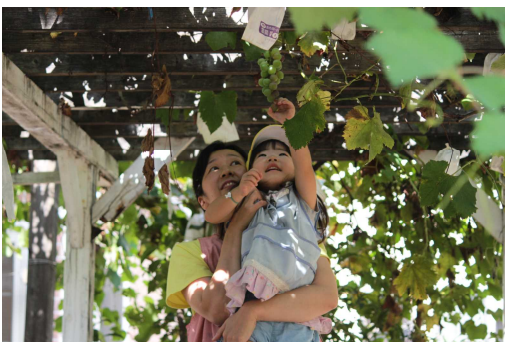
自然の中での遊びを大切に

幼児期の教育は、柔軟性の高い脳にいかにして多くの情報を記憶させていくかが課題となります。幼児期は大人と異なり、物事を受け止めて記憶する神経組織が未発達です。そのため五感を介してこの神経組織の枝を伸ばしていくことが大切になります。

今社会が大きく課題として取り上げているのが、「グローバルな多様性社会を目指した教育」です。一人一人の人間が社会の中で自分に何ができ、何をやり遂げられる人となるのか、を求められることが予想されています。

このような社会に向けて、幼児期に何を体験させ、何を学ばせておくかが大きな鍵となります。それは「遊び」です。遊びには多様性が潜んでいます。遊びの中で、思考を巡らせながら考える様々な体験できるからです。その一方、一つの知識を言葉だけで覚えさせても、それを使って応用していく力は育ちにくいとも言われています。

ある日、子どもたちがグループでなにやら家のようなものを作り始めました。形作っていく過程でイメージを思いめぐらせ、お互いのイメージがつながっていくと「映画館を作っているの」と伝えてくれました。映画館が次第に具体的になると、切符や座席、そして映像を模造紙に絵を描いてめくるような仕掛けを作り出し、楽しめます。映画館ごっこが一通り終わると、更にイメージが動いていって、消防車になったり、宇宙船になったりもします。このように遊びには、子どもの心を揺さぶる好奇心がたくさん詰まっているのです。そして知的脳力や応用力を高めていく大切な手段となります。



幼児期は、自然の中で五感を働かせながらやりたいことを考えて遊び、時に学級の中で、社会への適応力を学ばせていくことが理想とされています。毎日、いろいろな場に連れて行って、多様な体験をさせてあげてほしいものです。秋は、お散歩の季節。季節の移り変わりの中で、道々語り合いながら思いを巡らせてあげてほしいなと思います。

【園庭のブドウが実り、みんなで収穫して味わっています】